

令和7年度 地域課題解決型先端サービス実装化支援事業の成果発表

家庭ごみの削減を目的とした「三方良し・ふくふくプロジェクト」

令和8年5月20日

成果発表資料



荒川産業株式会社
株式会社 東芝



事業者 紹介

荒川産業 アマルクリサイクルBOXの詳細については
<https://box.amarc-recycle.com/> を参照ください



24時間*

365日

いつでも

だれでも

ご利用いただけます！

段ボール

雑誌

アルミ缶

スチール缶

新聞

小型家電

ペットボトル

鉄くず

古布

陶磁器

家庭から排出される資源ゴミを、24時間* 好きな時にいつでもお持ちいただくことの出来る無人回収ボックスです。リサイクルBOXで回収した資源物は、再生資源としてリサイクルします。

※ 一部店舗を除く

▶ 事業によって解決に向け取り組んだ課題

- ①家庭ごみと一緒に捨てられることが多い、古布・古着の市内リサイクル回収量を増やしたい
- ②「古布・古着のリサイクル回収事業」を早期に立上げるために、自営のリサイクル回収拠点設置以外の場所特に、人の流れが多く、日常的に利用できるスーパーやドラッグストアなどの店舗に回収BOX設置の協力をしてもらいたい。

スーパーやドラッグストアに協力してもらえよう店舗側のメリットを先端技術の活用やデータ活用により創出する。

結果

- ①家庭ごみの有料化 4月開始の影響で 他のリサイクル対象品含め 当初想定を取り出し超える回収
※会津若松市内Plus設置3箇所だけでも 25/3 VS 26/3月実測 32トン→47トン
+15トン 127%の増加率

- ②自営のリサイクル回収拠点設置以外の場所のスーパーやドラッグストアなどの店舗に回収BOX設置の協力要請をしたが、導入へのリスクがあり すべての店舗にて今年度の導入は断られてしまった。

「あなたの古着が、まちの幸福(ふく)になる。」

～ごみ減量&地域活性化・ふくふくプロジェクト～

「もったいない」を「ありがとう」へ。
家庭ごみに捨てていたその服、実は「お宝(資源)」なんです!

仕組み

STEP 1: 古着を持っていく



「お買い物ついでに、気軽に資源回収!」

STEP 2: スマホでパシャリ(選べる2つのコース)



STEP 3: 会津コインGET & お買い物

抽選で100名にあたる

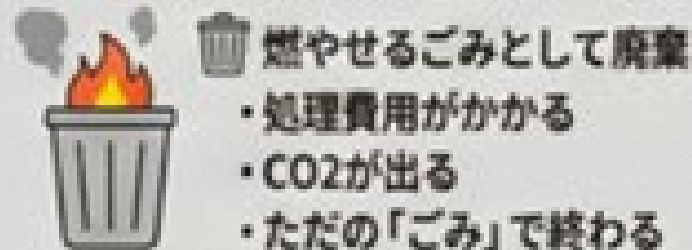


謝礼として地域通貨「会津コイン」をプレゼント!
貯まったコインで、またそのお店でお買い物ができます。

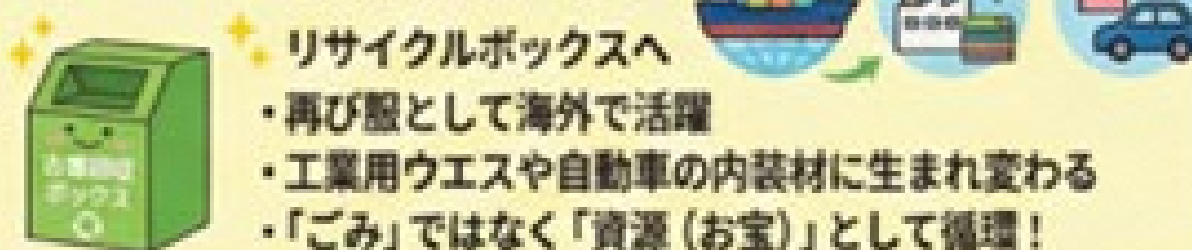
結果: 「ごみが減る」+ 「お得に買い物」= みんなが「ふく(幸福)」に!

3. なぜやるの? (意識改革エリア)

【Before: 今まで】



【After: これから】



4. 店舗様向けメリット(設置拡大のためのアピール)

「リサイクルボックスを設置しませんか？」
～場所を提供するだけで、集客と売上に貢献します～

- ✓ ついで買いの促進: 「古着を持っていくついでに買い物をする」来店動機
- ✓ キャンペーン効果: レシート投稿で会津コインが貰えるため、「必ずレジを通る」インセンティブ
- ✓ SDGs貢献: 地域課題解決に取り組む企業としてイメージアップ



事業結果報告

①流通小売店舗での設置交渉結果

①大手ドラッグストアー ②大型商業施設 ③スーパーマーケット

流通小売店舗への古着・古布リサイクルBOX設置を目指し、設置店舗に対して「来店客増加・レシートキャンペーンによる購買属性データ提供」などのメリットを強くアピールしてきた。しかし、**全ての小売・流通店舗からの設置拒否**という結果となった。根本原因はいずれも**設置に対する「リスクがある」**とのこと。

古着BOX(可燃物)の**放火・いたずら・不法投棄リスク**は店舗の軒下で発生する有形損害であり、店舗側には**直接の責任が生じる**。一方、提示したメリットは「来客増加(不確実)」「データ提供(間接的)」という**将来の不確実な利益**にとどまってしまった。

②荒川産業町北アマルリサイクルボックスにて、開発したWebサービスを活用し、アンケートを実施
リサイクルBOX古布・古着回収サービスを利用したい・利用を増やしたいと回答があった81.3%

関係者にてワークショップを実施しリスクの内容の深掘りを実施した

① 放火・いたずらリスク

古着BOXは可燃物の集積場所。放火・タバコ投棄・ガスライターの混入による火災が全国で発生。店舗の軒下設置は建物への延焼リスクが直結する。

② スペース・管理の負担

設置スペースの確保に加え、満杯時の管理、不審物の確認、顧客からの問い合わせ対応など、スタッフに見えないコストが発生する。

③ 不法投棄・不適正排出

生ゴミ・家庭ごみ・リチウムイオン電池（発火リスク大）など、回収対象外のものが投入される。夏場は衛生問題（悪臭）も発生。

④ 法的責任・コスト負担

BOX周辺での事故・火災発生時に店舗側が損害賠償責任を問われる可能性。回収・廃棄コストの最終的な帰属が不明確。

⑤ メリットの不確実性

「来客増加」「データ提供」は中長期・間接的メリット。既存の割引券・ポイントカードを持つ小売店には訴求力が低く、費用対効果が見えにくい。

⑥ 経営者の優先順位

食料品・日用品小売は薄利多売。CSR活動への投資よりも「本業の安定運営」を優先するのが経営合理的判断。行政の要請でも例外ではない。

今後について リサイクル回収事業 直近の課題への対応

いたずら・不法投棄の対策(急に増加している)

古布・古着回収だけの話ではなく、リサイクルボックス事業の運用に大きく影響している

不法投棄・混入・盗難が同時多発的に発生

特に「ゴミ箱誤認 × 無人環境」が最大要因と思われる

具体的な被害

- ・不法投棄 回収対象外のプラスチックゴミ、飲食店のあき瓶、家庭ごみの持ち込みが拡大
- ・いたずら 回収ボックスの中身を取り出して、まわりになげ置く

→結果 見回り、清掃などの運用スタッフのコスト、手間が増化。

持続可能なリサイクル事業の取組みを継続して進める

流通小売店舗での設置も店舗側のリスクを減らし、回収拠点の拡大を検討していく

→デジタル機器の導入 AIカメラ、AIエージェントによる運用自動化、24時間監視対応を提案中